（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスレインボー（単位2）			
○保護者評価実施期間	2026年1月23日	～	2026年2月27日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	５名	（回答者数）	４名
○従業者評価実施期間	2026年2月9日	～	2026年2月13日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	６名	（回答者数）	６名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子供が楽しめる多種多様な体験の提供。 SST、スポーツレク、ヨガ、ゲーム、脳トレ、遠足、社会科見学、公園遊び、工作、段ボール工作、駄菓子屋さん、お誕生会、釣り体験、実験、避難訓練、お習字、生き物図鑑、お仕事図鑑、バーチャル旅行、偉人伝説、大型絵本、感覚遊び、音楽遊び、児童館、図書館、ネットの使い方、アイロンビーズ、新年の誓い、書初め、伝統遊び、節分、バレンタイン、ひなまつり、メッセージカード作り、七夕、夏祭り、流しそうめん、虫取り、かき氷作り、水遊び、BBQ、ハロウィン、年賀状作り、クリスマス会、子ども忘年会等	子ども達にどのような活動をやりたいか尋ね、実際に取り入れたり、保護者からいただいた提案を参考にしたりしています。職員同士で活動プログラムについて話し合い、こどもの年齢や発達段階、特性を考慮しつつ、楽しくかつ学びの要素を含んだものになるよう、また様々な体験の中から社会性を学ぶことができるよう意識しています。5領域に考慮し、偏りのないようプログラムを組んでいます。	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営
2	事業所内での十分な遊び場の確保ができている。室内遊び（工作やボードゲーム・カードゲーム等）だけではなく、施設内の広場を整備し、外出しなくても外遊び可能な環境づくりをしている。ティーバッティングやサッカー、フリスビーや大縄跳び、砂場遊びをして十分に体を動かすことができている。	集団活動に参加しにくい子に対しては、職員と一緒に見学したり、職員の手伝いをしてもらったりしながら別の形で参加できるような対応をし、無理のないようにしている。	保護者の困り感に寄り添うため、外部講師を招いた研修や講演会等の実施
3		事業所では、児童の様子を写真で撮り、簡潔な文章とともに保護者と共有している。また、日々の療育の中で児童と積極的に関わり、信頼関係を構築している。困り感に寄り添い、悩みを打ち明けられるような関係性と築き、安心感を提供している。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民との交流	活動に地域の公園や図書館、児童館等の公共施設利用を組み込んでいる。今後も継続して積極的に地域の施設利用を行い、地域住民との交流を図っていきたい。その際には、個人情報保護についても留意する。	可能な限り公共施設を利用し、公共施設でのお約束やルールを守りながら地域の方との交流を増やしていく。同年代の地域住民との交流についても機会を設けていく。
2	保護者間の交流	児童の利用時間が平日であることや、他者との交流を希望する／希望しないと意見が分かれることもあり、「交流会」を設けることが難しかった。	前年度から３事業所合同の運動会を実施しており、今年度は保護者参加の競技を増やしている。その際に、保護者間の交流を望む方達のきっかけにできるよう工夫していく。
3	前年度から３事業所合同の運動会を実施しており、今年度は保護者参加の競技を増やしている。その際に、保護者間の交流を望む方達のきっかけにできるよう工夫していく。	定期的にお便りを発行し、災害時の対応やSNS利用への留意点等を共有しているが、受け取り手である保護者へ伝わっていない可能性が考えられる。	お便りのみの配布ではなく、日頃から使用しているLINE等で同様の内容をお伝えし、情報の発信を強化していく。また、ブログの活用も行い、より周知の範囲を広げられるよう工夫していく。